パネル　2013年度せんだいメディアテークでの企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): Tohoku Gakuin University 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/362

被災地からのレスキュー

パネル編集：阿部千賀子
伊藤瑞穂
櫻井かほり

◉ 牡鹿の歴史をものがたる文化財は残った

平成 23 年 3 月 11 日に発生した地震による東日本大震災では、多くの文化財や博物館が多くの文化財や博物館が被害を受けました。牡鹿半島でも数多くの民俗資料が被災しましたが、奇跡的にもほぼ全ての文化財が流失を免れました。

◉ 文化財レスキュー開始

収蔵庫内部は海水が滞留し、資料が破損したりカビが生えたりして甚大な被害を受けました。こうした文化財を救うため、「被災文化財等救援委員会」が文化財レスキューに乗り出しました。全国から研究員、博物館学芸員が集まり文化財レスキューが始まったのは、ゴールデンウィーク明けのことでした。

◉ 学生たちのクリーニング作業

東北学院大学博物館には、旧牡鹿町から運び出された民俗・考古・地学資料が一時保管されています。500 件約 4000 点にのぼる全ての資料を運び終えたのは、10 月下旬のことでした。

文化財のクリーニングには、大学生が中心にあたっています。資料はまずその状態や対処法を指示するカルテを作成し、それに従ったクリーニングを行いました。

◉ 未知の保全作業

資料の状態は極めて劣悪でした。バラバラになったもの、割れた陶器類等をどう修復して整理していくかが今後の課題となります。

カビの問題や塩害の問題、バラバラになった資料をどの程度まで復元するかも未だに未解決です。こうした問題はこれまでの博物館にない未知の保全作業であり、それ自体が重要な研究課題です。

被災した民俗資料をどう意味付けていくかは、民俗学の観点からも重要なテーマとなっていくと思われます。

◉ ここから始まる新たな牡鹿の歴史

牡鹿半島の歴史をものがたる重要な資料は、ほぼ全て残りました。これら文化財を失うということは、歴史の痕跡や証拠を失ってしまうことと同じです。文化財が残ったことは、地域のこれからを考える上で希望の持てる出来事だと言えるでしょう。

鮎川収蔵庫　被災状況

民俗資料のレスキュー作業